

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2472900113		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町国府1061-153		
自己評価作成日	令和6年1月25日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2472900113-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2472900113-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年2月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

主媒体が病院（医療法人）のグループホームであり、健康管理面で24時間体制のサポートや、急な体調不良時の受診にも対応可能な点は、入居者及びその家族にとって一番喜んでいただいている部分であり、施設としても強くアピールしている。主治医による訪問診療を月2回実施し、体調に応じた薬の変更、受診の手配、予防接種など柔軟に対応している。施設内は季節感を取り入れることを意識しながら家庭的な雰囲気作りを心掛けている。自宅にいるような穏やかな気持ちになっていただけるよう職員一同で取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は運営法人の施設と同敷地内にあり、静かでのどかな雰囲気が感じられ、玄関が無施錠であっても心配なく、利用者が生活されている。管理者が女性であるためか、周囲や室内は季節の花があちこちに見られ、職員や利用者の手作りの作品が飾られて、全員女性で占められている利用者がアットホームな対応の中で和やかな表情で過ごされている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価以降理念について話し合い、少し具体的な内容を追加して新しく作り直した。施設の見やすい場所に掲示し、常に意識して業務に当たるようにしている。	前回の外部評価後、具体的な内容を追加して変更している。理念にある「ゆったり…」に基づき、利用者のペースを大切に、自主的に動いてもらうことをサポートするように心掛けており、毎月の定例会議でも共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスなど感染症対策の強化を法人として取り組んでいるため、なかなか交流できていない。	コロナ禍以前は、認知症カフェを開催したり、老健の夏祭りや地域の生き生きサロン等に参加したりしていた。最近では地域からの野菜などの差し入れや、近隣の方の面会があり、運営会議には地域の方の出席がある	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、感染症対策の観点から積極的な実践が出来ていない。徐々に、認知症カフェなど再開していきたいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長らく運営推進会議の書面上の開催を続けていたが、令和5年12月より対面での開催を再開している。書面のやり取りより、多くの意見を聞けたので、施設外での開催ではあるが、次回以降も積極的に開催していきたいと思う。	コロナ以降中止して書面で報告を行っていたが、昨年12月より再開、会議録は家族に郵送で送っている。会議出席者の消火訓練時は水での消火だけでは不十分との意見により、消火器を使った訓練も実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内等は手渡しにするなど、窓口に行く機会を積極的に作るようにしている。疑問点などもその都度確認し、良い関係が築けていると思う。	市役所等にはなるべく足を運ぶ機会を持つようにして、入退居の書類は手渡しで行っている。連携を密にするために、制度上の問題等わからない事は相談に行っており、制度改定についても相談して連携を密に行っていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアが標準であり、身体拘束を今まで行っていない。職員もそれが当たり前と考えている。また、身体拘束についての研修会や施設の勉強会なども積極的に取り組んでいる。	事業所の玄関はチャイムが設置され、通ると反応する、日中は解錠されており、夜のみ施錠している。研修は年2回実施、事業所内の勉強会や市の研修にも参加して、積極的に取り組んでいる。身体拘束防止委員会を隣の同組織の施設と合同で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	行政主催の研修等に参加したり、施設内の勉強会でテーマに取り上げたり積極的に取り組んでいる。月1回の会議でも必ずチェックリストを活用して確認し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して勉強したり、パンフレット等を集め、最新の情報を理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は対面で、項目ごとに丁寧に説明しながら行っている。入居後、契約についてのトラブルは報告されていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営規定に要望等伝えて頂く相談窓口を記載している。また、ラインを活用して日常の報告等を行っているため、電話連絡より具体的なやり取りができているように思う。	家族とはLINEのやり取りを行い、運営会議の開催や面会の調整等の連絡や事業所に対する要望を受け付けている。利用者には食事についてのリクエストカードに食べたいものをリクエストしてもらう等の取り組みも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が常に職員の意見を聞く姿勢を示し、何でも話せる体制を整えている。また、月1回定例の会議があり、運営や業務について意見を反映させる場となっている。	年に何回か面接の機会を持ち、要望を聞いている。オープンな要望は定例会議でも即時に検討を行い、エプロンやユニフォームについての要望を受け入れている。シフトについては希望休は月3回、各家庭の行事等についても協力を依頼して、休みやすいように対応して職員の意見を反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績考課の仕組みがあり、職員の取り組みが反映されるようになっている。資格取得など積極的に取り組んだ職員には給与面などで評価されるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は情報収集を管理者が行い、職員に参加を呼びかけ希望者が参加できるようにし、施設内での伝達講習も実施している。施設内の勉強会では毎月違うテーマを取り上げ、資質向上につながるよう務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志摩市介護サービス事業者連絡会に属し、定例会での情報交換や研修会へ参加するなどし、他施設の方と交流するようにしている。（現在はまだオンラインでの開催となっている）		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成前に入居前の介護サービス事業者からの情報などしっかり収集を心掛け、予備知識を持って本人の言葉や家族の要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して不安のないよう事前に施設の資料や入居時の準備物等の資料をお渡し、疑問点は遠慮なく問い合わせるよう伝えていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族共に何を一番望んでいるのかアセスメントの中で聞き取るよう配慮し、必要な支援を組み込んだプランを提供するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中で『ともに一緒に行う』ということを大切にしたいと掲げており、職員もそれを理解してケアに取り組んでいる。入居者には洗濯物干しなど家事に関わって頂き、生活を支えている感覚を持って頂けるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ライン連絡を活用し、家族からは気になることを伝えて頂いたり、ホームからは近況報告に写真を貼付したりして良い関係が築けているように思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策で実行できておらず、知人の方の面会を受け入れる程度しか支援できていない。	隣人や借地の方等、面会に来られる方についてはオープンに対応しており、地元をドライブして自宅や馴染みの場所を見に行ったり、家族の協力を得てお墓参りをして、できるだけ馴染の方との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状や気の合う方、合わない方など、入居者同士の関係を把握したうえで、談話室の座席や食席の配置に気を付けたり、トラブルになりそうな時は、職員が早めに介入するなど配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お便りに写真をたくさん掲載したり、日ごろの様子をラインなどでしっかり伝え、関係が途切れないよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話の中のサインを見逃さないよう、収集した情報や気付きなどは丁寧に介護記録に記入し、職員間で共有している。	入居前の調査で本人と家族から家庭での暮らし方の希望や意向を聞き取り、職員と情報を共有している。また、日々の業務の中から拾い出したり、家族の面会時に聞き取った情報を記録して職員間で共有して、意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで年代別の記録シートを家族に依頼したり、過去のケアプランや主治医意見書などもできる限り収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の様子は毎日必ず介護記録に記入している。また夜勤帯はさらに詳しく記入するよう心掛け、職員間の情報共有に活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回プランは本人や家族の意向を確認して作成し、モニタリングは毎月の会議で職員も交え検討し、次回プランへ反映させている。	本人が意向を言える方が少なく、主に家族から本人の意向を聞き出している。3か月に1回モニタリングを行い、主治医の指示や職員からの聞き取りを反映させ、状態変化に応じてプラン変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別の介護記録、バイタルの記録、ワークシートを活用し情報共有ができています。すべての記録を電子化し、より見やすく、記録しやすくすることで実践への反映も効率的に行っている。口頭での申し送りも毎朝実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過でタブレット端末を導入し、日常の連絡や入居者の写真入りで日ごろの様子の報告をしたり、オンライン面会に活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過ということになかなか外部との協働は家族以外の知人の面会程度に留まっている。地域資源の開拓に前向きに取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は自由に選択いただけるが、ほとんどが法人の病院の医師を選択いただいている。ただ、不定期の通院で専門医を受信する際などは介護タクシーの手配や医師への情報提供など支援している。	入居時に、嘱託医は緊急時に即時に対応できる事の説明を行い、ほとんどのの方が嘱託医に変更しているが、地元のかかりつけ医希望の方は受診時にバイタル記録や報告書を事業所から家族に手渡し、総合病院や皮膚科、眼科等の家族受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する介護老人保健施設の看護師と医療連携協定を結んでおり、24時間対応の体制を整えている。急なケガや病気の発症時の対応の相談、救急搬送の指示など迅速に対応できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談員が各病院の地域連携室などと情報交換を行い、入退院時など適切に対応できる体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応や、看取りについてはアンケートという形では本人及び家族の意向を確認するようにしている。また、ACPへの取り組みとして、『わたしメモ』という本人の意向を確認するシートを活用している。	入居時に重度化についての事業所の指針を伝え、本人・家族に重度化した場合の希望を確認している。重度化した場合に病院を希望される家族が多く、看取りの希望はほとんどなく看取りの経験はないが、「わたしメモ」に普段の会話から終末期についての希望を利用者から聴き取って記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応についてのマニュアルを作成し、職員に周知している。応急手当などの物品はわかりやすく整備し、勉強会も開催予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、地震や火災想定、夜間の想定など様々なケースを設定した避難訓練を行い、とっさの時に適切に行動できるよう訓練している。	年に2回避難訓練を行い、消防署の指導を受け、夜間想定訓練も実施し、緊急時の職員連絡網も作成している。非常食は備蓄してローリングストックしており、自家発電についても訓練時に点検を行っている。	災害対策について充実した準備が行われているが、避難経路に洗濯物や布団が干してあったりするため、非常時に備えて常に避難しやすいスペースを確保しておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の介護技術の研修では、特に尊厳に配慮したケアを大切にしている内容となっており、全職員が交代で受講している。特に声掛けについては言葉使い、声のトーンなど配慮するように周知している。	職員全員が研修を受け、法人からは人格の尊重についての試験を管理者が受け、管理者が利用者の人権の擁護についての指導が適切にできるよう取り組みがなされ、マニュアルが写真付きで順番立てで作成され、マニュアルに沿った対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時やおやつ時間の雑談など、リラックスした時間に昔話を聞かせて頂いたり、選択肢を用意して自己決定を促すような方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に施設としての日課は決まっていないのでその日その日で、入居者の過ごしたいような一日になるよう、入居者一人ひとりにお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は原則本人の着たい物を毎日選んで頂き、着用頂いている。認知症で選択できない方は一緒に選ぶなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備やお茶の準備など、できることを無理なく一緒に行い、達成感を味わっていただいている。季節ごとの節句にはその行事のお菓子をを用意するなどし楽しんでいる。	出来る人には食事の下ごしらえや頂き物のネギを揃えたり、包丁で刻んでもらったりしている。職員がケーキのスポンジを焼いて、利用者がトッピングを楽しんで普段のおやつにしたり、たい焼きを焼いたりして食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、各個人に応じた摂取量などを指導いただき提供している。水分についてはペットボトルで配茶を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、共用洗面所や居室の洗面所で歯磨きをして頂き、月に数回訪問する歯科衛生士にも口腔内の状態を確認してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設オリジナルのワークシートを活用し、利用者個々の排泄時間を記録し、パターンに応じ声を掛けて促している。	事業所オリジナルのワークシートを活用し、排泄の失敗はほとんどない。パソコンの画面で一目で各自の排泄の時間がわかるので、各自のタイミングに合わせてトイレの声掛け・誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ワークシートに排便の時間、量、形状などを記録して早期に便秘を発見し、医師と連携して服薬や水分摂取量などを管理し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、浴槽に湯を張りいつでも入れる体制であるが、主に1週間に2～3回のペースで入浴いただいている。1人につき30分程時間をとり、ゆったりと入って頂くよう心掛けている。	週に2～3回の入浴回数。自分で大体入浴日がわかっており、「今日はお風呂の日やな」と楽しみにされている。職員が菖蒲や柚子を持参して季節感を楽しんだり、お風呂では職員と二人きりでゆっくりと話せる時間を持てるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室へはいつでも戻って休んでいただけよう、掃除や寝具交換など利用者のペースに合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報としてファイルを作っており、職員はいつでも確認できる状態である。医師と連携して服薬の調整を行い、適切な処方となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各々の生活歴を入居時に聞き取ったり、入居者のやりたい作業を各職員間で共有し、毎日の張り合いとなるよう提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため、外出はドライブや通院程度に留まっている。できる限り気候のいい時期は施設の周りを散歩して、外気を感じて頂くようにしている。	利用者より散歩の希望があれば、出来るだけ散歩に出掛けるように対応している。花見は河津桜・桜・藤・アジサイ・ルピナスなどを見に行き、秋は紅葉狩り、伊勢神宮参りなどのドライブをして季節感を味わえるよう外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一定額のお小遣いを家族よりお預かりし、本人の要望に応じて買い物の代行を行っている。一緒に買い物に出掛けることを再開できないか検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の半分くらいの方が携帯電話をお持ちで、居室で電話をされているが、使い方がわからなくなった場合はお手伝いさせて頂いている。電話をお持ちでない方は要望に応じ事務所の電話を使っただけしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の装飾は季節感を大切にするようにして、四季の行事に応じた雰囲気作りを心掛けている。職員も季節の花を持ち寄り、生け花の好きな入居者に飾って頂くなど支援している。	掃除の行き届いている共用空間は利用者の手作りの作品が所狭しと展示され、日差しの明るい食堂はパーテーションも装飾され、テーブルには季節の花が生けられている。事業所全体が静かで居心地の良い空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室では気の合う方同士がおしゃべりを楽めるよう席を作ったり、新しい方には誘導して座る場所に案内し、施設の生活に早く馴染んでいただけるよう、居場所の確保に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や居室の家具はお好みの物を持ち込み可能であり、使い慣れたものを持って来て頂くよう入居時に声をかけている。家具の配置などは本人と相談しながら決めるようにしている。	使い慣れた家具や食器を持ち込んでもらい、居室にはソファが置かれ、コロナ前は家族とソファで寛がれていたが、今は利用者同士のおしゃべりの場となっている。自分の好みの装飾品や手作りの作品を置いたり、ご主人の遺影を飾られたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は各所に手すりを設置し、安全に移動できるような環境作りに配慮している。トイレ入口などには大きく張り紙をして認知症の方にもわかりやすいよう工夫している。		